

部員不足で不戦敗の春から3ヵ月

戦う喜び 夏にぶつける

玉野高校野球部

メンバー不足で不戦敗となった春の大会から3ヵ月。新生・玉野高校野球部が、14日開幕の第99回全国高校野球選手権岡山大会に挑む。今春1年生が17人入部し、3月まで10人しかいなかった部は一気に活気づいた。初戦は開会式直後に等岡工業高校とぶつかる。ナインは「プレーできる喜びをかみしめたい」と、決戦に備えて連係に磨きを掛けている。(近藤哲也)

「まさか球場にたどり着けなくなるとは」。3年新宮大聖さん(17)は振り返る。4月8日、春の県高校野球西部地区予選。市民

球場で古城池高校と対戦するはずだったが、濃霧で直島―宇野間のフェリーが欠航。玉野高校は新宮さんら直島から通う3人が会場入りできず、規定で不戦敗となった。

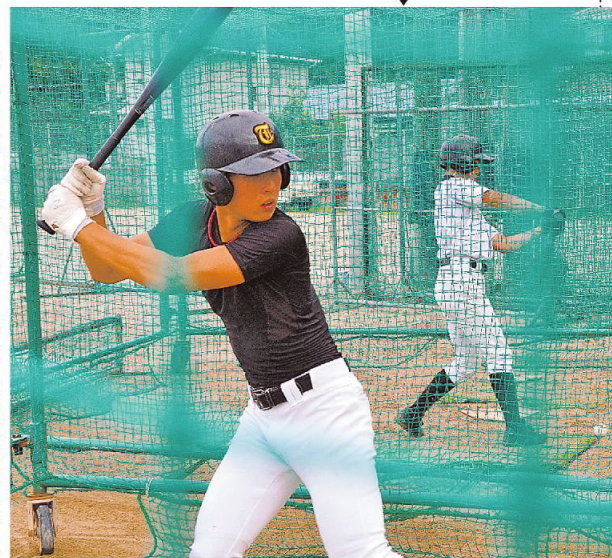
昨夏3年生が引退し、部員は10人に。練習も試合もぎりぎり、けが人が出れば活動の大きな支障となるため、選手は体のケアを念入りにしてきた。が、濃霧は想定外だった。県大会出場の可能性は既に消えていたとは



1年生17人入部し活気

開幕試合勝利目指す

打撃練習に励む玉野高校野球部員



いえ、公式戦には練習試合とは違う緊張感があり、課題を探る重要な機会。誰の責任でもないが、新宮さんらは「天気を調べておけば、対策を取れたかも」と後悔したという。

ぎりぎりの状態は4月に一変。1年生が17人も入部したのだ。しかも大半が市中学校野球選抜チーム・玉野クラブで全国大会の経験がある選手。

「即戦力が多く心強い」と3年堀泰智主将(17)。墨に走者を置いた実戦形式の練習ができるようになり、練習の質はぐっと高まった。

1980年代に夏の岡山大会で3度準優勝し、

高校野球岡山大会に向けての練習中、戸田英樹監督(右)の指示を聞く玉野高校野球部員ら。人数が増え、活気が戻った

早く公式戦をやりたい。ナインの思いが伝わったのか、夏の岡山大会組み合わせ抽選会では、開幕試合を引き当てた。「真っ先に試合ができるのはうれしい。全出場校に刺激を与えるプレーを見せろ」と堀主将。エースとしてマウンドに立つ新宮さんも「必ず勝利する」と気合十分。もちろん、全員で天気を確認し、準備に万全を期す。

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。